

第2章

能美市を取り巻く動向

第1節 能美市の概況

能美市の主な特徴

【位置】石川県の南部、加賀平野のほぼ中央、県都金沢市から南西約20kmのところに位置しており、北は白山市、川北町、東は白山市、南は小松市に隣接しています。

【地勢】西部に白砂青松の美しい海岸線を有する日本海を望み、中央部には標高2,702mの霊峰白山から流れ出る手取川に培われた肥沃な扇状地、そして東部には白山山系に連なる能美丘陵が美しい稜線を描いており、海・山・川・平地の自然に恵まれた豊かな地勢となっています。

【面積】市域面積は83.85km²、主な地目は山林約43%、農地約20%、宅地約12%となっており、山林は東部に広く分布しています。

【人口】人口47,207人、世帯数14,844世帯（平成17年国勢調査）であり、若年層の転入・定住等により増加傾向にあります。また、少子・高齢化は進行しているものの、県平均に比べると緩やかに推移しています。

【産業】世界的に有名な大企業から特殊技能を持った中小企業に至る多くの企業が立地しており、県内有数の産業集積エリアとして位置づけられます。また、いしかわサイエンスパークでは、北陸先端科学技術大学院大学における学術研究をはじめ、民間企業との共同研究開発など産学官が連携した取り組みが行われています。

【特産】全国的に有名な伝統工芸である九谷焼の産地であり、陶磁器の製造・卸売業が盛んであるほか、農業ではコシヒカリや丸いも、ゆずなどの特産品づくりが行われています。

【観光】海水浴場や温泉、動物園、丘陵公園、遊園地などの多彩な観光・レクリエーション施設があり、また、現在大リーグで活躍中の松井秀喜選手の「ベースボールミュージアム」が人気を集めています。なお、主なイベントとしては、根上り七夕まつりや九谷茶碗まつり、辰口まつりなどが毎年開催されており、5月のゴールデンウィークに開催される九谷茶碗まつりは、県内外から約30万人が訪れ、県内有数のイベントとして賑わいをみせています。

【地域】市内各地域では、地区（自治）公民館を拠点とする生涯学習活動をはじめ、ボランティアやNPO、各種団体、サークル等による市民が主体となったまちづくり活動が盛んに行われています。

能美知識①

■能美市の歴史

能美市には、古くからの人々の営みが現代に受け継がれており、旧石器時代の灯台笹遺跡や、4～7世紀に作られたとされる能美古墳群がそれを物語っています。また、源氏と平家の戦いが繰り広げられた古戦場があり、「源平盛衰記」にも記されています。



能美古墳群の一つである
「和田山古墳」

第2節 時代の潮流

まちづくりの着実な
進展に向けて

全国的な少子・高齢化の進行や経済構造の変化、地方分権改革、高度情報化の進展等を背景に、21世紀の日本は大きな転換期を迎えており、これまでの経験や既成概念だけでは対応できない時代の変化が、市民の暮らしの様々な部分に影響を及ぼしつつあります。

本市の新たなまちづくりを着実に進めていくためには、全国的な時代の潮流を広く展望し、行政をはじめ、市民一人ひとりが的確に対応していくことが求められます。

踏まえるべき時代の
変化

● 少子・高齢の時代 ～“人口減少時代”の到来～

- 世界でも類を見ない少子・高齢化の進行
- メンテナンスの時代、コンパクトシティ化へ
- 団塊の世代の大量退職や高齢者の人材活用
- 成長・拡大志向から成熟化社会経済への転換 …等

● 安全・安心の時代 ～真の“豊かさ”の追求～

- 地球規模の自然災害の多発に伴う防災意識の高まり
- 食の安全の確保、感染症の脅威への対応
- 循環型社会の形成、エネルギー資源の枯渇、自然の再生
- 安全・安心システムの構築、生きることを見つめなおす …等

● 知性・感性の時代 ～“知”を通じた新たな連携～

- ユビキタスネット社会、科学技術の進歩
- 学校・家庭・地域による“学ぶ”ことの再認識
- 異業種間交流や産学官連携による新たな知の創造・活用
- 新しい知恵と古き良き知恵の融合・連携 …等

● 交流・連携の時代 ～“グローバル化”の進展～

- 経済・文化のボーダーレス化
- 都市間競争の激化、地域資源を活かした個性ある都市の創造
- 国際感覚を備えた人材育成、もてなしの心の醸成
- 広域的な連携による地域の共通課題の克服 …等

● 自立・協働の時代 ～“地方分権”のさらなる推進～

- 自己決定・自己責任・成果主義に基づく地域経営
- 地域コミュニティの希薄化、住民自治の再認識
- 行政主導型まちづくりの限界、市民と行政の役割の見直し
- 道州制、地方自治の新たな展開 …等

第3節. 能美市の特性と可能性

本市独自の可能性を
活かしたまちづくり

本市には、海山川の豊かな自然環境をはじめ、いにしえからの歴史・伝統・文化、快適でゆとりある居住環境、優れた人材を輩出する良好な教育環境、健やかな暮らしを支える医療・福祉環境、個性豊かで活力ある産業があり、そして、“ふるさと能美”に誇りを持つ市民が暮らしています。

これらはすべて能美市の“財産”であり、市民と行政が一緒になって、地域に輝くまちづくりの可能性を掘り起こし、それぞれの可能性を活かした本市独自のまちづくりを実現していくことが大切です。

本市の特性と可能性

海・山・川の豊かな自然環境

本市は、日本海や能美丘陵をはじめ、市民の暮らしと大地を潤す手取川、初夏の浜辺を赤く彩るはまなす群生地、清流が美しい七ツ滝など、海山川をベースとした豊かな自然に恵まれています。

【まちづくりに向けた可能性】

- 身近な憩いの場としての活用
- 市内外における交流の場としての活用
- 環境教育・環境保全活動の場…等



いにしえからの歴史・伝統・文化

本市には、先土器時代の灯台笹遺跡や能美古墳群、源平古戦場跡、伝統工芸である九谷焼、地域に根付いた祭りや数々の史跡・文化財等の歴史・伝統・文化があります。

【まちづくりに向けた可能性】

- 本市にしかない魅力としての活用
- 地域に対する愛着と誇りの醸成への活用
- 歴史・伝統・文化のイベント等への活用…等



能美知識②

■「能美」の由来

能美市の「能美」の名は、平安時代の前期、弘仁14年（西暦823年）に加賀国が立国した際、新しい行政区画として生まれた加賀国能美郡に由来します。国の役所である国衙及び国分寺は郡内の野身郷（能美郷）に置かれ、政治・経済の拠点として発達してきました。

「能美」とはおそらく、「物事を成し得るすばらしい力と美しい自然環境のある地」＝「新しい加賀国の政治経済の中心地としてふさわしい地」といった意味があり、人々が新しい国づくりに対する意欲や誇りを表現するために、旧来の「野身」を白山や日本海、緑多き平野を眺望しての「美しき能国（よきくに）」の「能美」に改称したと思われる。

快適でゆとりある居住環境

本市は、旧3町時代に培われてきた地域拠点を有する分散型のコンパクトな都市構造であり、金沢・小松市に近く、立地条件に恵まれています。また、これまでに災害や犯罪の少なく、快適でゆとりある居住環境を有しています。

【まちづくりに向けた可能性】

- 立地条件を活かしたまちづくり
- コンパクトで無駄のないまちづくり
- 安全・安心で住みやすいまちの創造…等



優れた人材を輩出する教育環境

本市は、全国的に有名な九谷焼作家や政治家、スポーツ選手等、優れた人材を輩出してきた良好な教育環境を有しています。また、北陸先端科学技術大学院大学や寺井高校、石川県立九谷焼技術研修所などが立地しています。

【まちづくりに向けた可能性】

- 北陸先端科学技術大学院大学のさらなる活用
- 高等教育及び学校教育と生涯学習との連携
- スポーツの盛んなまちづくり…等



健やかな暮らしを支える医療・福祉環境

本市では、市立病院をはじめとする救急医療機関が整っているほか、ボランティア等による地域福祉活動が盛んに行われており、市民の健やかな暮らしを支えています。

【まちづくりに向けた可能性】

- 子供を産み育てやすい環境づくり
- 高齢者や障害をもつ人がいきいきと暮らせるまちづくり
- 地域レベルの健康・福祉体制の構築…等



個性豊かで活力ある産業

本市には、いしかわサイエンスパークや粟生工業団地、海浜部等での産業集積、丸いも・ゆず等の特産品、動物園や温泉等の観光資源があります。また、学術研究機関である北陸先端科学技術大学院大学が立地しています。

【まちづくりに向けた可能性】

- 産学官の連携による産業の活性化
- 特産品を活用した魅力づくり
- 観光資源の連携による交流人口の拡大…等



能美知識③

■特産「加賀丸芋」

大正時代に五間堂町の農家で自家用として栽培され、その当時「五間堂イモ」「タンコロイモ」と呼ばれ、その後近隣集落に広がりました。

昭和23年頃から栽培が盛んになり、関西方面へ出荷され、芋の形が丸いことから「加賀丸芋」と改名、能美地域の特産品として名声を博しました。現在約16haで栽培され、健康・スタミナ食品として重宝がられています。

“ふるさと能美”に誇りを持つ市民

本市では、NPOやボランティアを中心とする地域活動が盛んに行われており、教育・文化・福祉・環境などの多分野において市民が主体的にまちづくりに取り組んでいます。

【まちづくりに向けた可能性】

- 市民と行政の協働型まちづくり
- 住民自治（コミュニティ）の再構築
- 地域活動のさらなる活性化…等



第 4 節. まちづくりに対する市民の意識

市民及び中高生の
まちづくりに対す
る想い

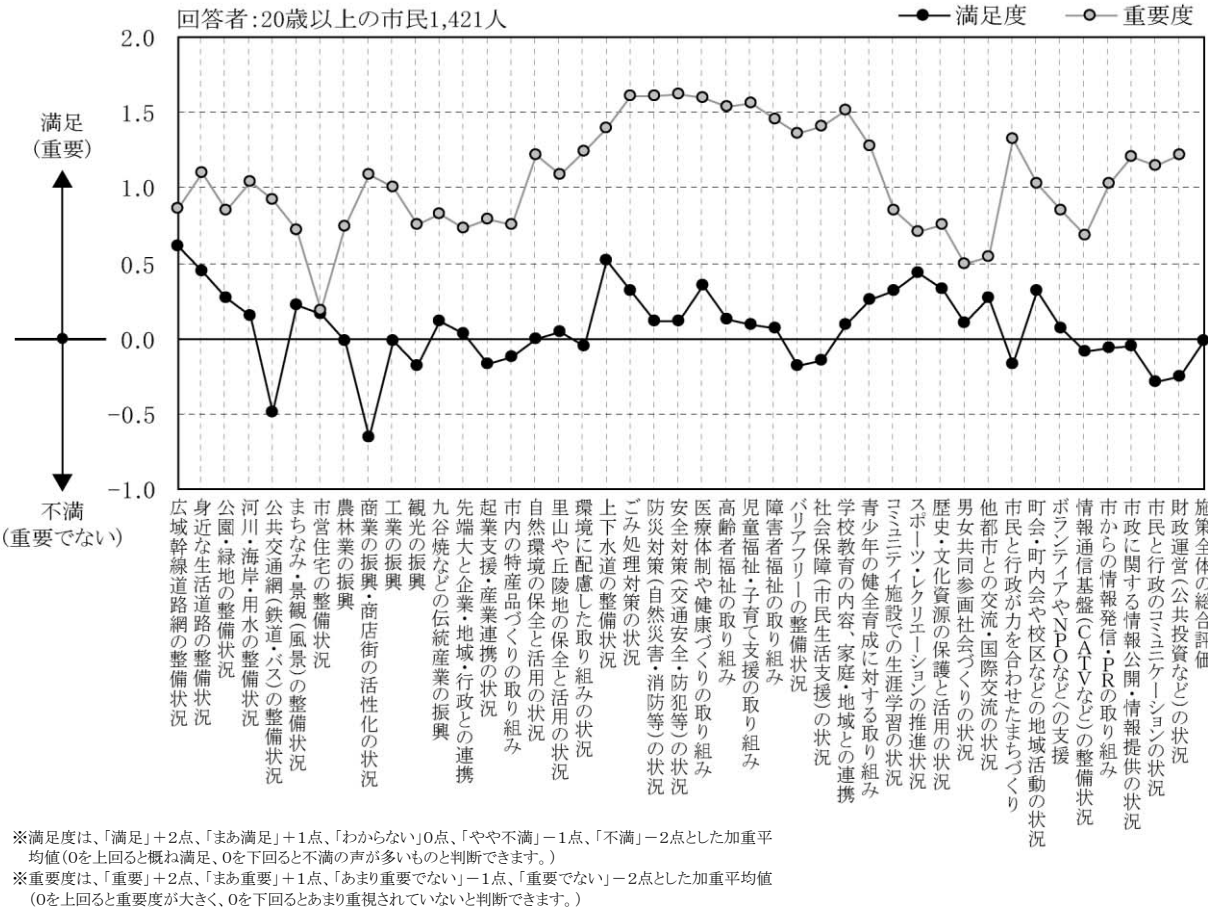
重要視されている
安全・安心なまち
づくり

本計画の策定にあたり、市民の意向を反映したトータルプランとすることを目的に、20 歳以上の市民（3,000 通配布、1,421 通回収、回収率 47.4%）及び寺井高校 1 年生（141 名）、市内中学 2 年生（457 名）に対し、アンケート調査を実施しました。

アンケート結果を総括すると、市民のまちづくりに対する意識は、以下のように整理されます。

1. 施策の現状に対する満足度とこれからの重要度

- ◆道路や公園、上下水道の整備状況については満足度が高い一方、「商業の振興・商店街の活性化の状況」や「公共交通網の整備状況」、「市民と行政のコミュニケーション」、「市民と行政が力を合わせたまちづくり」、「財政運営の状況」については満足度が低く、またこれらの施策については重要度が高くなっています。
- ◆健康・福祉施策や防災対策、安全対策、学校教育、青少年の健全育成については、現状でもある程度満足されているものの、市民の安全・安心を支えるこれらの施策は、今後ますます重要になってくるものと考えられています。

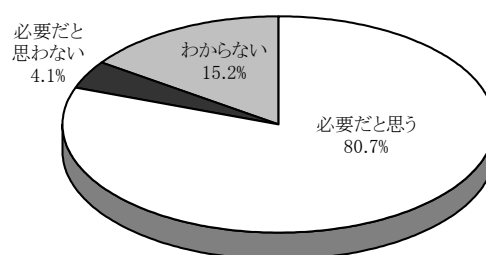


高まる協働体制の 必要性

2. 市民同士及び市民と行政の協働体制の必要性

- ◆地域社会での生活における市民同士あるいは市民と行政の協働体制の必要性については、回答者の8割が「必要」としています。
- ◆また、今後の取り組みとしては、「市民及び団体と行政が協力し合って解決できる仕組みをつくる」、「自治会や町内会が中心となって地域内の交流活動を積極的に行う」ことが主に求められており、市制施行を契機として、市民と行政が各々の役割を果たす協働型まちづくりの必要性が認識されています。

【市民同士あるいは市民と行政の協働体制の必要性について】

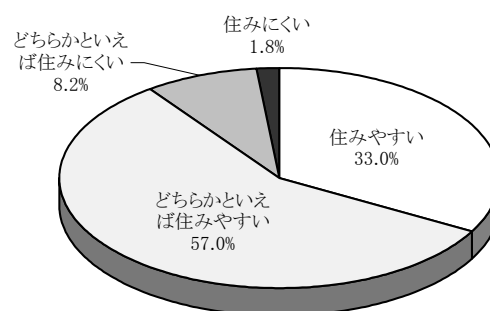


能美市は住みやすく、 これからも住み続け たいところ

3. 能美市の住みやすさ

- ◆市民アンケート回答者の9割が、現在住んでいるところを「住みやすい」と評価しています。また、定住意向については、「このままずっと住み続けたい」との回答が72%を占めており、「一時的に離れることがあっても、今の地域に住み続けたい」とあわせると、計85%の回答者が、これからも能美市に住み続けたいと考えています。
- ◆中高生については、回答者の8割以上が「住みやすい」と評価しており、市内に住む高校生の55%、中学生の69%が能美市で住み続けたい意向を示しています。一方、「他の市町村へ移り住みたい」との回答が約2割を占めており、その理由としては都会への憧れが多くなっています。

【能美市の住みやすさについて（市民アンケート結果より）】

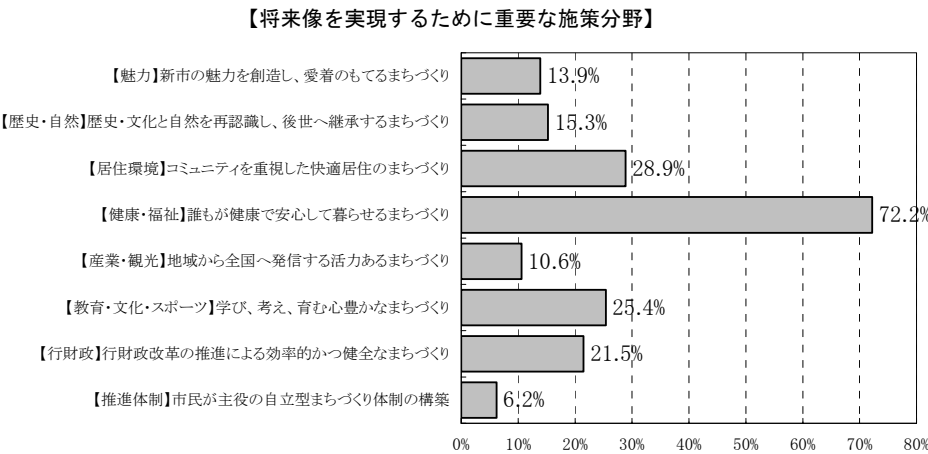


重視されている健康
福祉施策

行財政の効率化と地
域資源を活かしたま
ちづくりへの期待

4. 将来像を実現するために重要な施策分野

◆能美市合併まちづくり計画（新市建設計画）で掲げた『海山川の恵みと人が輝く やすらぎのまちづくり～歴史・文化・自然・産業が調和した快適居住都市～』を実現するために重要な施策分野としては、「【健康・福祉】誰もが健康で安心して暮らせるまちづくり」が圧倒的な支持を受けており、健康・福祉施策が重視されている現状がうかがえます。



5. 今後のまちづくりに対する意見等

- ◆今後のまちづくりに対する意見・要望については、市民アンケート回答者の約 4 割の記述がありました。キーワードで分類した結果、「行財政の健全化」に対する記述が最も多く、“行財政の無駄をなくしてほしい”という意見が多く見られました。
- ◆中高生アンケートの中で、能美市の良いところ・今後も活かしていきたいことに関する設問には、約 8 割の記述がありました。キーワードで分類した結果、第 1 位「自然・環境」、第 2 位「祭り・イベント」、第 3 位「コミュニティ・ふれあい」となっており、“自然がたくさんあり住みやすい”、“いろんなイベントがあるところが良い”、“あいさつ運動などの活動を今後も活かしてほしい”などの意見が見られました。
- ◆一方、能美市の悪いところ・今後改善すべきことについても約 8 割の記述があり、第 1 位「商業施設」、第 2 位「自然・環境・ゴミ」、第 3 位「居住環境・安全・安心」の順となっており、“お店が少なく買いたいものが買えない”、“道路や海などにたくさんゴミがある”、“夜暗くて危ない通学路があるので街灯をつけてほしい”などの意見が寄せられました。

◆地域懇談会における意見概要

地域の声に表れる
能美市の課題

本計画の策定に際し、地域の生の声を計画に反映していくため、平成17年8～9月、市職員が市内74地区へ足を運び、「地域懇談会」を開催しました。地域懇談会では、住民の皆さんから、市全体の課題から地域固有の問題点まで、たくさんのご意見をいただきました。ここでは、その概要について整理します。

● 人口・世帯に関する意見

- ◆高齢化が進む中、一人暮らしの高齢者への配慮が課題
- ◆老人パワーによる地域おこしが必要
- ◆少子・高齢化に伴う空き家の増加が問題となっている …等

● 土地利用に関する意見

- ◆市街化調整区域（農業振興地域）における規制を緩和してほしい
- ◆中山間地の荒廃、山林の維持管理が課題
- ◆遊休農地の活用方策を検討する必要がある …等

● 農業に関する意見

- ◆農業後継者の確保・育成が大きな課題
- ◆農業経営（共同化、集落営農など）のあり方について検討すべき
- ◆農業用排水路の老朽化が進んでいる …等

● 生活環境に関する意見

- ◆町内会として、防災計画や自主防災組織が必要
- ◆交通安全に配慮した道路整備や街路灯の設置が必要
- ◆ゴミの不法投棄、空き地の管理不足 …等

● 地域運営に関する意見

- ◆壮年団や婦人会などの地域活動団体の会員数が減少傾向にある
- ◆アパート入居者の地域活動への参加が少ない
- ◆町内会行事への参加者が限定されている …等

● その他の意見・要望

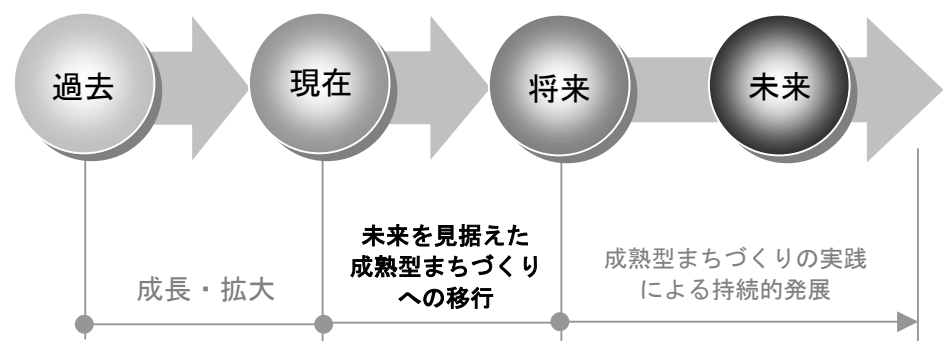
- ◆公共施設のバリアフリー化が必要
- ◆公共交通ネットワークの充実、スクールバスの新設
- ◆健康・福祉施策の充実（健康診査、子育て支援等） …等

第 5 節. 能美市の課題

現状を見つめ直し
次なるステップへ

本市は、県内有数の産業集積ゾーンとして発展し、人口は増加傾向にあります。しかしながら、全国的な流れとしては、人口減少や経済の低成長化を背景に、スクラップ&ビルドを基調とした“成長型”のまちづくりから、これまでのストックを活かして内部充実を図る“成熟型”のまちづくりへと移行しつつあります。

本市では、過去・現在のすう勢を踏まえて、将来における成長を図りながらも、やがてくる未来の社会構造の規模縮小を視野に入れつつ、いかにして成熟型のまちづくりを実践し、持続的発展が可能な都市を構築していくかが大きな課題となります。



課題抽出の視点

本市を取り巻く現状や時代の潮流、まちづくりの可能性、市民及び中高生へのアンケート調査結果等を踏まえ、主要課題を以下のような視点で抽出しました。

◆ 課題抽出の視点と主なキーワード ◆

魅力	魅力の創出／ブランド／市のPR／北陸先端科学技術大学院大学の存在／知的交流・・・	産業 観光	農林業／商工業／観光資源／九谷焼／起業支援／産学官の連携／労働環境／消費生活・・・
歴史 自然	美しい自然環境／里山・水環境の保全・活用／歴史・文化・伝統の継承／循環型社会／景観・・・	教育 文化 スポーツ	学校教育／青少年の健全育成／生涯学習／芸術・文化／生涯スポーツ／ひとづくり・・・
居住 環境	定住促進／土地利用の適正化／道路・公園整備／公共交通／上下水道／浸水・排水／防犯・防災・・・	行財政	地方分権／行財政基盤の強化／民間活力の導入／行政サービスの向上／情報公開・・・
健康 福祉	高齢者・障害者・児童福祉／子育て支援・少子化対策／健康づくり／社会保障／ユニバーサルデザイン・・・	参画 協働	市民参画／市民と行政の協働／地域コミュニティ活動／男女共同参画／NPO・ボランティア・・・

能美市の主要課題

1. 魅力ある都市の創造に向けて

- 都市間競争が激化し、個性ある都市の形成が求められる中、これからの時代を強く生き抜いていくためには、地域資源を活かした魅力的なまちづくりを展開していくことが求められます。
- 魅力ある都市の創造に向けて、本市では、市制施行を契機とした地域間の連携強化をはじめ、能美の風土に育まれた農産物等のブランド化や、市のPR及びグローバルな情報発信、市内外における交流を図っていく必要があります。また、北陸先端科学技術大学院大学の存在を活かした知的交流及び留学生との国際交流などを実践していくことが課題となっています。

2. 豊かな歴史・自然の活用に向けて

- 本市には、海山川の豊かな自然環境や、九谷焼・古墳群・祭りなどの歴史・伝統・文化があり、市民及び中高生に対するアンケート調査では、これらの自然・歴史資源が“能美市の良いところ・今後も活かしていきたいこと”の上位に挙げられています。
- 一方、海浜部の保安林の松枯れや、林業の衰退に伴う里山の維持管理体制の弱体化といった問題が顕在化しており、自然環境が有する多面的機能の低下が懸念されています。
- 本市の豊かな歴史・自然の活用に向けて、良好な自然環境の再生・保全に努めるとともに、歴史・文化・伝統の継承、循環型社会の形成に向けた取り組みなどを図っていくことが求められます。

3. 快適な居住環境の充実にに向けて

- 全国的な人口減少と経済の低成長化を背景に、都市基盤を新たに整備する時代から、既存ストックを活かしたメンテナンスの時代を迎えており、本市においてもコンパクトなまとまりを活かした成熟型のまちづくりがこれからの課題となっています。
- 一方、地球規模の自然災害の多発や犯罪の増加・凶悪化、食の安全の問題など、市民の生活環境を脅かす様々な現象が続く中、市民の“安全・安心”を求める声は非常に高まっています。比較的治安が良く災害の少ない本市においても、市民の安全・安心を確保するための施策が必要不可欠となっています。
- 以上のことを踏まえ、本市の快適な居住環境の充実にに向けて、コンパクトなまちを目指した適正な土地利用の規制・誘導をはじめ、市民が安全・快適に暮らせるまちを目指した防犯・防災・交通安全対策の充実に図ることが求められます。また、市民満足度が低い公共交通の充実による市民の足の確保、降雪時に配慮した道路の整備、水災害の未然防止に向けた浸水・排水対策、上下水道のさらなる充実などを図っていくことが必要となっています。

能美知識④

■「九谷焼」の歴史

九谷焼は、大聖寺藩主の命令で後藤才治郎が有田で修行し、1655年頃に現在の加賀市山中温泉九谷町に窯を開いたのが始まりとされています。九谷の窯は1730年に閉じられ、この間に焼かれたものが古九谷と呼ばれています。

古九谷の廃窯から約80年後、加賀藩で金沢に春日山窯が開かれ、再興九谷の時代に入りました。春日山窯の木米風、古九谷の再興を目指した吉田屋窯、赤絵細描画の宮本窯、金襴手の永楽窯など数多くの窯が出現しています。

明治時代に入ってから、九谷庄三の彩色金襴手が有名となり、大量の九谷焼が「ジャパン・クタニ」として海外に輸出されました。今日の九谷焼は、各時代の窯の上絵付けの作風が源流となっています。

能美市の主要課題

4. 健康・福祉の充実に向けて

- わが国では、世界のどの国も経験したことのないスピードで少子・高齢化が進んでおり、人口増加を維持している本市においても、少子・高齢化は着実に進んでいます。このような中、高齢者・障害者・児童福祉施策や医療・健康づくりの取り組みについての市民の関心は非常に高くなっており、アンケート結果では健康・福祉施策に対して一定の評価を得ているものの、これらの施策は今後ますます重要になってくるものと考えられています。
- 健康・福祉の充実に向けて、本市では、市立病院における公立病院としての役割を踏まえつつ保健・医療・福祉体制の強化を図るとともに、高齢者や障害をもつ人がいきいきと暮らせるまちを目指した各種福祉施策の充実、安心して子どもを産み育てることができる環境の形成を図ることが課題となっています。また、市民の健康の維持・増進に向けた取り組み、社会保障の充実、ハード・ソフト両面でのバリアフリーの推進とユニバーサルデザインの考え方の普及、福祉に関するNPOやボランティア等と地域住民との連携・協力による地域福祉の増進などに努めていくことが必要となっています。

5. 産業・観光の活性化に向けて

- 本市には、県内有数の産業集積があり、バブル期に比べて事業所数は減少したものの、製造品出荷額は微増傾向を保っており、経済の成熟化が進む中、本市の工業は活力を維持しています。一方、農業については、農家人口・農家数・農業粗生産額のすべてにおいて著しい減少傾向にあり、今後、後継者の不足や遊休農地の増加などが懸念されます。また、商業については、バブル期以降、商店数・従業者数・年間商業販売額に大きな変動は見られませんが、市民の「商業の振興・商店街の活性化」に対する評価は低く、今後の重要な施策として考えられています。
- 観光については、県内唯一の動物園であるいしかわ動物園や辰口温泉、クアハウス九谷や手取フィッシュランド、根上グリーンビーチや松井秀喜選手のベースボールミュージアムなどの観光資源を有しているほか、九谷茶碗まつりは県内有数のイベントとして県内外から多くの観光客を本市に招き入れています。しかしながら、市民の「観光の振興」に対する評価は低く、今後さらに改善していくべきと考えられています。
- 以上のことを踏まえ、本市における産業・観光の活性化に向けて、厳しい状況が続く農業の振興に向けた取り組みをはじめ、林業の振興による森林の多面的機能の維持・向上、人々の生活に身近な商店街の活性化等による商業の振興、企業誘致や起業支援等による工業の振興を図っていくことが求められます。また、観光資源の連携とさらなる充実による観光の振興、伝統工芸である九谷焼の振興のほか、北陸先端科学技術大学院大学との産学官連携による新たな産業の育成などを図っていく必要があります。

能美知識⑤

■「辰口温泉」の由来

養老の年、村人が傷ついた馬の脚を湧き出る湯で癒したという言い伝えが残る、約1,400年の歴史を持つ古湯。創業150年を超える2軒の宿があり、明治の文豪・泉鏡花ゆかりの温泉としても有名です。泉質は含食塩芒硝泉で婦人病や神経痛などに効能があり、温泉広場には泉鏡花文学碑と辰口温泉由来の碑が設置されています。

長い歴史の中、度重なる川の洪水で源泉が埋まりましたが、来丸村の源助が夢枕に現れた薬師如来に「さらに深く掘り盤石を取り除け」と言われ、その通りにすると再び温泉が湧き出たといわれています。なお、その盤石は、市立博物館に保管されています。

能美市の主要課題

6. 教育・文化・スポーツの充実に向けて

- 近年、ゆとり教育のあり方や児童・生徒の学力低下、青少年犯罪の増加などが問題視される中、学校・家庭・地域の連携による“学ぶ”ことの重要性の再認識が必要となっており、市民アンケート結果では「学校教育の内容、学校・家庭・地域の連携」や「青少年の健全育成に対する取り組み」は、あいさつ運動の実施等により一定の評価を得ているものの、今後さらに重要性を増すものと考えられています。
- 教育・文化・スポーツの充実に向けて、本市では、学校・家庭・地域が一体となった教育環境の向上をはじめ、公民館や図書館を拠点とした生涯学習のさらなる推進、総合文化会館などの活用による芸術・文化の振興を図っていくことが求められます。また、体育館や野球場等の体育施設やスポーツ団体を活かした生涯スポーツのより一層の充実に図っていくことが必要となっています。

7. 行財政の安定に向けて

- 国による地方分権改革が本格化し、地方自治体においては自己決定・自己責任・成果主義に基づく地域経営が求められる中、本市では、行財政の効率化や行政サービスに対する市民の満足度は低く、今後優先的に改善していくべき事項となっています。
- 行財政の安定とこれからの発展に向けて、本市では、行政評価システムや民間活力の導入等による行財政の効率化、職員の資質向上等による行政サービスの向上、情報通信基盤の多面的な活用によるユビキタスネットワーク社会への対応を図っていくことが求められます。また、地方分権のさらなる進展を視野に入れ、これからの時代を力強く生き抜く自立した都市を形成していくことが課題となります。

能美知識⑥

■「根上総合文化会館・根上学習センター」の特徴

平成6年に開館した総合文化会館は、日本海側初の可動音響壁、可動吸音プロセニアムを配した本格的な音楽ホール（タント）をはじめ、1,500人収容の円形ホールや小ホール、ハイビジョンシアター、会議室などを備え、「見る・聴く・演ずる感動空間」として、地域文化の発展・発信に重要な役割を担っています。

また、平成16年に隣接して建設された根上学習センターは、図書館をメインに、子ども宇宙科学室にはデジタルプラネタリウムが導入されているほか、根上いん石なども展示されています。

8. 参画・協働の推進に向けて

- 少子・高齢化や核家族・単独世帯の増加をはじめ、人々の価値観やライフスタイルの多様化などに伴い、地域コミュニティの希薄化・弱体化が顕在化しつつあり、市外からの転入が多い本市において、この傾向は今後強まるものと予想されます。
- 一方、まちづくりの主体は市民であるということが再認識されつつある今、行政主導型のまちづくりには限界が生じてきており、市民やNPO・ボランティア等の各種団体の主体的な活動が盛んな本市においては、市民と行政の役割分担の見直し・再考が課題となっています。
- 以上のことを踏まえ、参画・協働の推進に向けて、本市では、市民・各種団体・企業・大学・行政が相互に連携・協働したまちづくりをはじめ、住民自治の再認識に基づく地域コミュニティ活動の支援、男女の対等なパートナーシップによるバランスのとれた地域社会の形成などを図っていくことが必要となっています。